



富士見高校 養蜂部が「最優秀賞」「文部科学大臣賞」を受賞



平成24年秋に開催された日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表の部で、富士見高校の養蜂部が「最優秀賞」と「文部科学大臣賞」を受賞しました。この成果を糧に、今後も地域資源や文化の魅力を発信し続けてほしいと願います。高校側から、養蜂部の活動内容および受賞の報告をいただきました。

皆さん、こんにちは。私たちは富士見高校養蜂部「ハッチ・Bee・8」です。

私たちが在来種の「ニホンミツバチ」に着目したのは、“地域の資源に目を向けよう”という思いがきっかけでした。ニホンミツバチと真剣に向き合い、その可能性を追求しようと、私たちは2010年に養蜂部を発足し、ミツバチの飼育を開始しました。

私たちは活動の中で地域環境に目を向け、今年度は地域の蜜源植物を歩いて調べようと「ハニーウォーク」を開催し、子供たちと歩いて楽しく調査しました。また、この調査によって町には耕作放棄地が多いことがわかり、その有効活用として土手・畦、耕作放棄地に地域の方とガーデン作りをしました。現在、各所にできたガーデンは生物が蜜源として利用するだけでなく、子供からお年寄りまでのコミュニティの場としても広く活用されるようになっていきます。

また、ニホンミツバチは四季を通じて地域の多様な花から蜜を集めてくるため、そのハチミツはまさに自然を味わえる資源となります。私たちはそのハチミツを利用して地域の方へミツバチの魅力を伝えようと「ハチミツ収穫祭」を開催しました。ここでは採れたてのハチミツを食べてもらうことで、自然の温もりや命の尊さを五感で感じていただけました。また、地元レストランや農家と連携してハチミツと地元農産物を使った料理や飲料を開発し、東京のレストランや友好都市などで販売しています。さらに、イタリアで行われた世界最大の食の祭典「サローネ・デル・グスト」に私たちのハチミツを出品し、世界にも地域資源やその文化の魅力を発信することができました。

ハチミツの他にも、ミツバチの生産物にはミツロウやローヤルゼリーなどがあり、私たちはこれらを様々な形で活用することができます。また、ミツバチの社会性からは仲間を思いやる気持ちや生命の尊さを学ぶこともできます。そんなミツバチを教育に活かそうと、私たちは教員免許更新制度で講演。また、一橋大生や筑波大生などをはじめ、多くの学生と交流を図り、現在これらは共同研究にも発展しています。

さらに私たちは、この多分野に渡った活動を日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表の部で発表しました。この大会は全国328校の農業高校が一同に集まる農業高校生の甲子園であり、今年度は長野県での開催でした。私たちはこの記念すべき大会で県内初となる最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞することができました。これもひとえに地域の方の支えがあったからこそその結果であり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、町では垂れ幕を飾っていただくなど、ご配慮いただき誠にありがとうございました。

養蜂部での活動は私たちの進路にもつながり、卒業生は信州大学をはじめ、四年制大学・短大に進学することができました。私たちは、この富士見町だからこそ充実した活動ができているのだと実感しています。今後も、富士見の地で元気いっぱい活動していきたいと思っておりますので、これからもご指導のほど宜しくお願いいたします。

